

★ 臺灣紀行 ★

(2)

山 本 一 清

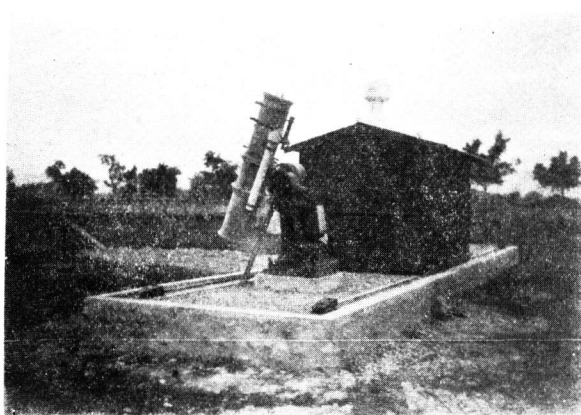
十二月20日(木曜) 午前中から二中へ行き、望遠鏡の調節をする。ほど出来上つたので、明日の夕暮れ時、市内の有力者を招き、披露観測會を開くこととし、約90通の招待狀を松本氏が發送して下さる。同時に格納庫の高さと車とを修理する必要があるので、大工を呼び、至急に工事させることにした。

13時45分から、校長の依頼により、二中の全生徒に一場の天文講演をした。それから、16時には市内のメソヂスト教會に招かれ、約一時間、宗教講演。18時、宿へ歸り、晴れた西空に、ヘルクレスの新星を観測。光度は「龍」のγ星より5段と明るく、ほど2.0級と目測!! 夕食後、再び二中へ行き、望遠鏡の極軸を調節した。大工の仕事が出来上がるまで、格納庫の開閉の度毎に寄宿寮の生徒を動員するのだが、「ソレ!」と言ふと、元氣よく二三十名も出動してくれるので、誠に有難く、又、氣持ちが良い。

十二月21日(金曜) 午前中は在宿、計算。13時から當地の高等女學校に招かれ、全校生徒に講話した。主として天體引力論の話であつた。此の講堂は、今から七年前、水星の太陽面通過を観測のため、やつて來た時、一般市民に講演した場所であるが、自分には殆んど元の記憶が無く、むしろ初めての如く感じた。

女學校から二中へ行き、今朝からかゝつてゐる大工の仕事を監督した後、後事を松本氏に託して置いて、16時から當市の本島人有力者から成る「中州クラブ」に招かれ、約一時間半にわたり天文座談會をした。集る者約25人、皆、大學又は専門教育を経た紳士で、非常に愉快的會合であつた。講話の後、質問等も出で、かなり手ごたへあるものであつた。

日没時、一旦歸宿、食後、再び二中へ行く。(途中、少時、圖書館に立ち寄り、田中館秀三氏のブラジル旅行談の一部をきいた)今夜は市内有力者たちに

臺
中
の
觀
測
臺

望遠鏡を紹介し、土星などを觀望して頂かうとの豫定であつたが、あいにく空は一面の曇りなので、止むを得ず、20時から約一時間にわたり、30人ほどの來會者に對して、觀測上

の理由から臺中を撰んだこと、其の他、此頃の天文上のトピク等につき、講話し、望遠鏡の解説等をした。22時、終り、それから暫く校長室で、津野田醫學博士等と、天體寫眞のことにつき雑談。宿に歸つたのは夜半に近かつた。

十二月22日(土曜) 明日からの第10回日本學術協會總會のため、お晝すぎの汽車で臺北に向ふつもりでゐたが、朝の眼ざめが早くて、荷作りが意外に進捗したのと、彼地に到着後、人々に會ひたいので、急に列車をかへ、10時27分に出發した。臺北へは15時18分に著。直ちに「朝陽號」に入る。

今夜は數物關係者の晚餐會と、同志社關係者の晚餐會と、兩方から招かれてゐたが、自分は基隆市主催の通俗講演に招か

北
回
歸
線
標

れてゐたので、何れにも出席し得ず、會々來訪して下さつた舊師吉川先生と同車して、20時、自働車により基隆に着。桑原市尹等に迎えられ、公會堂で「太陽と人生」を語つた。20時終り、その後、暫く座談して、又、吉川先生と同車、臺北の宿に歸る。(つゞく)